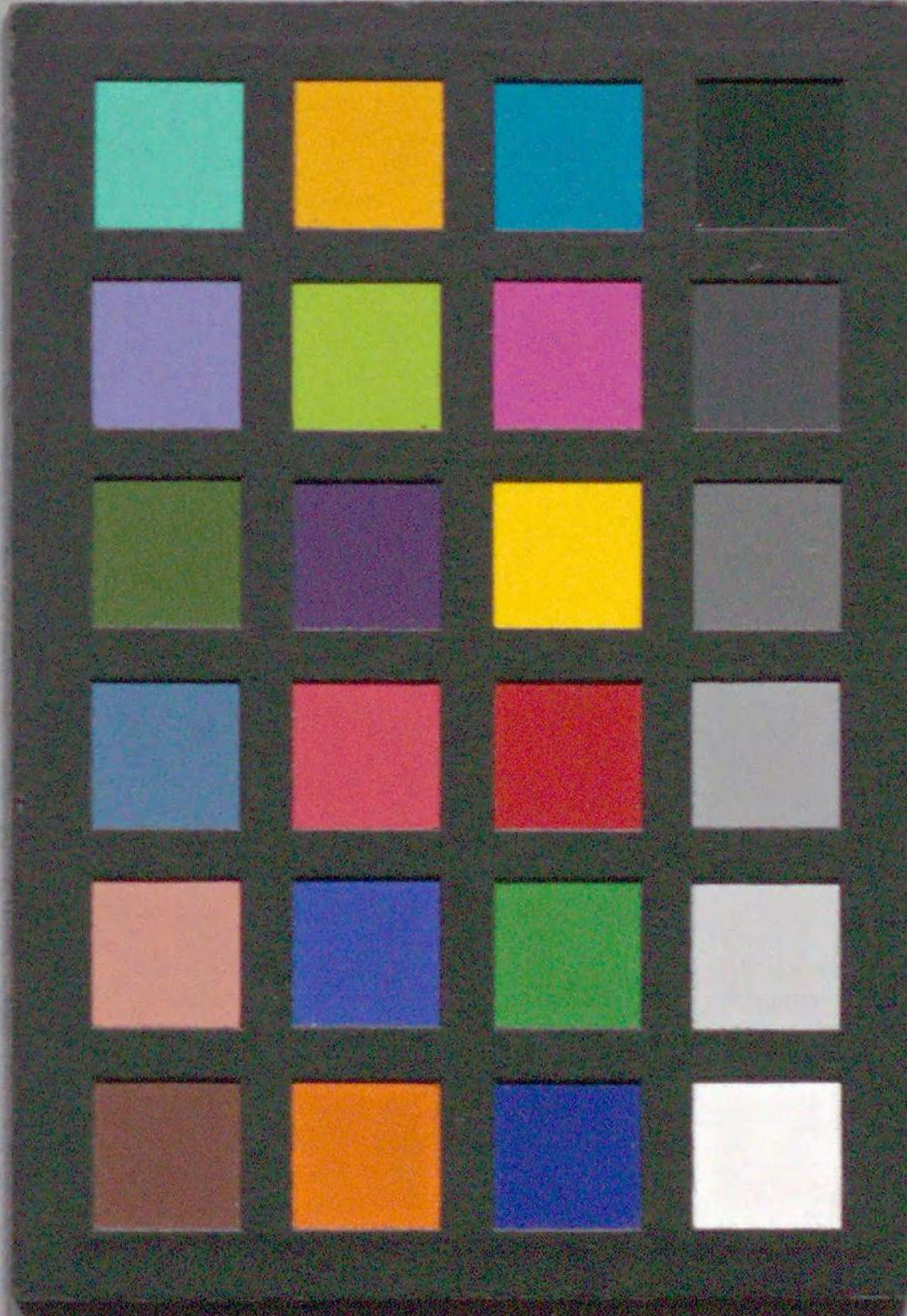




国立国会図書館 佐野の渡雪の八橋 208-717



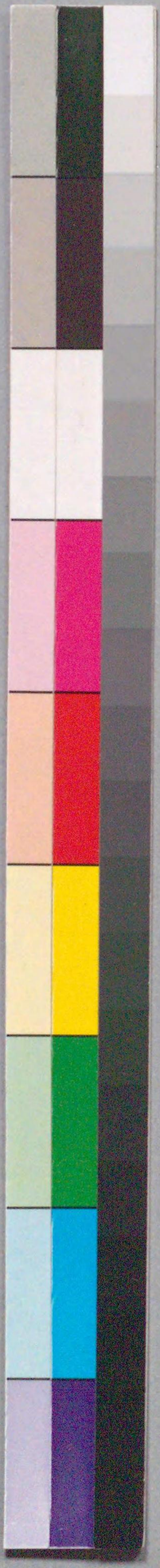
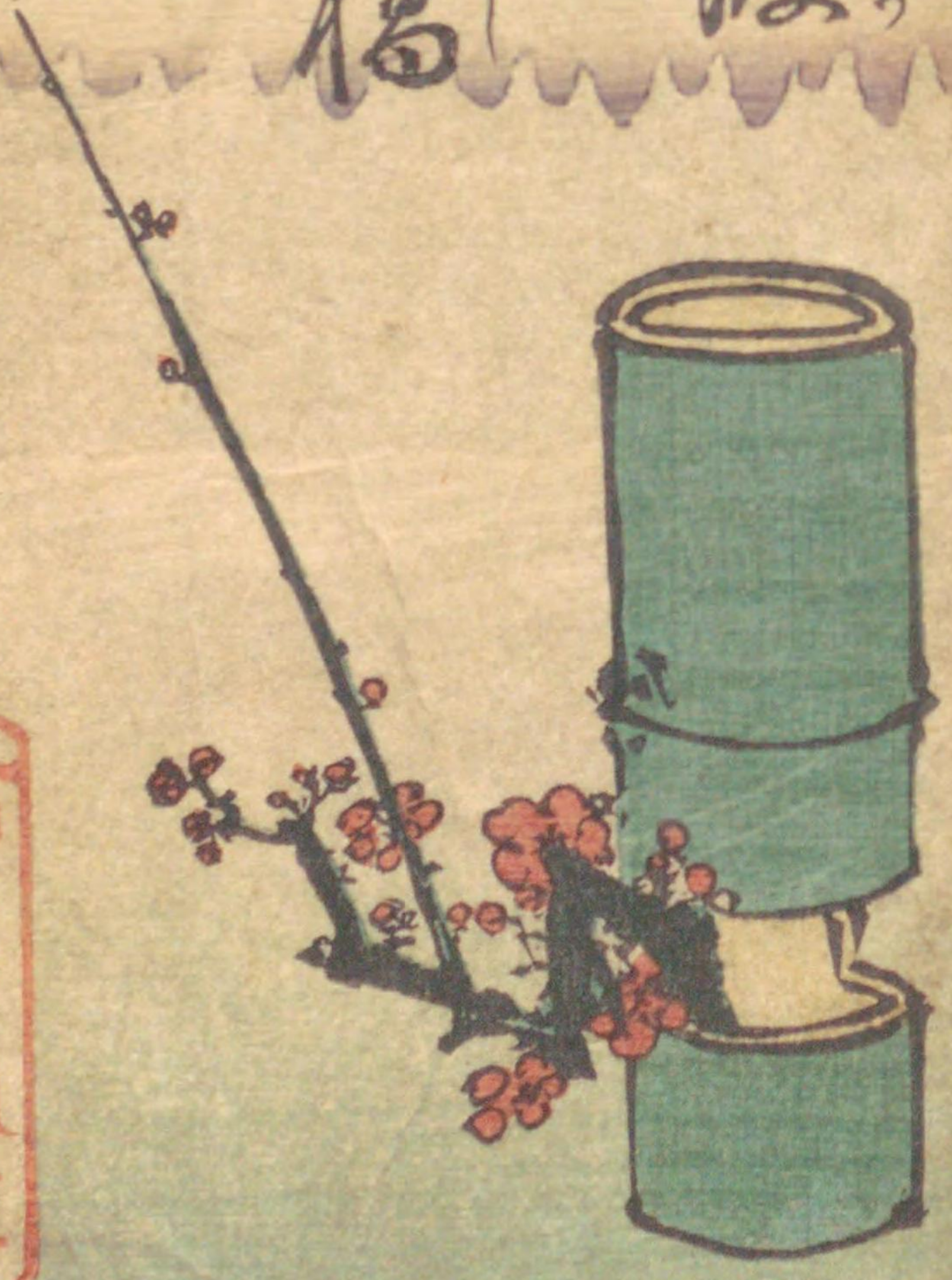
ガラス使用

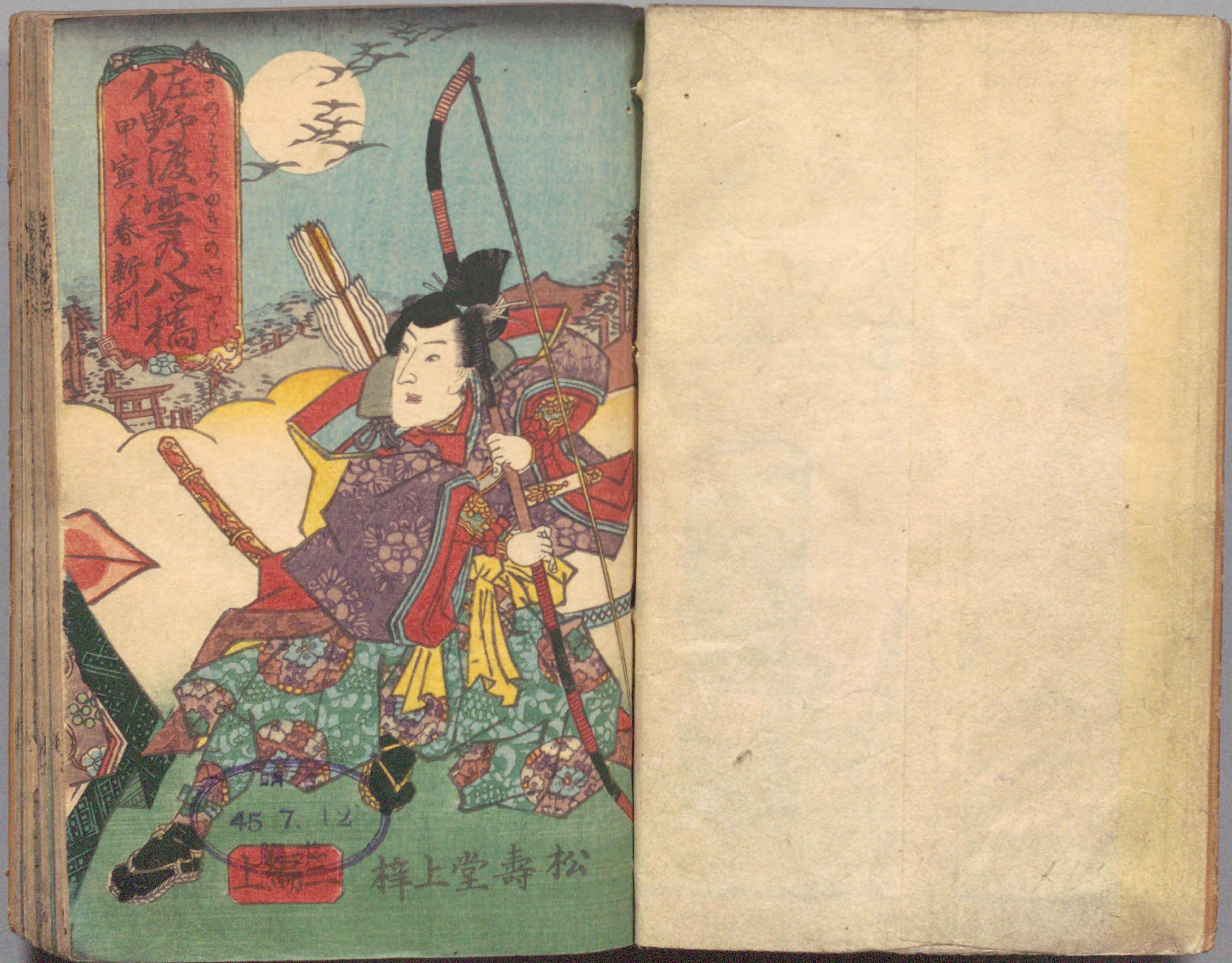
208
3
717

野渡
雪乃
八橋
三編
春水著
國磨画

甲寅
新刻

和齋堂





佐野の渡雪の八橋
甲寅の春新刻

45 7. 12

上

松壽堂上梓

為永春水著
歌川國麿画

佐野渡

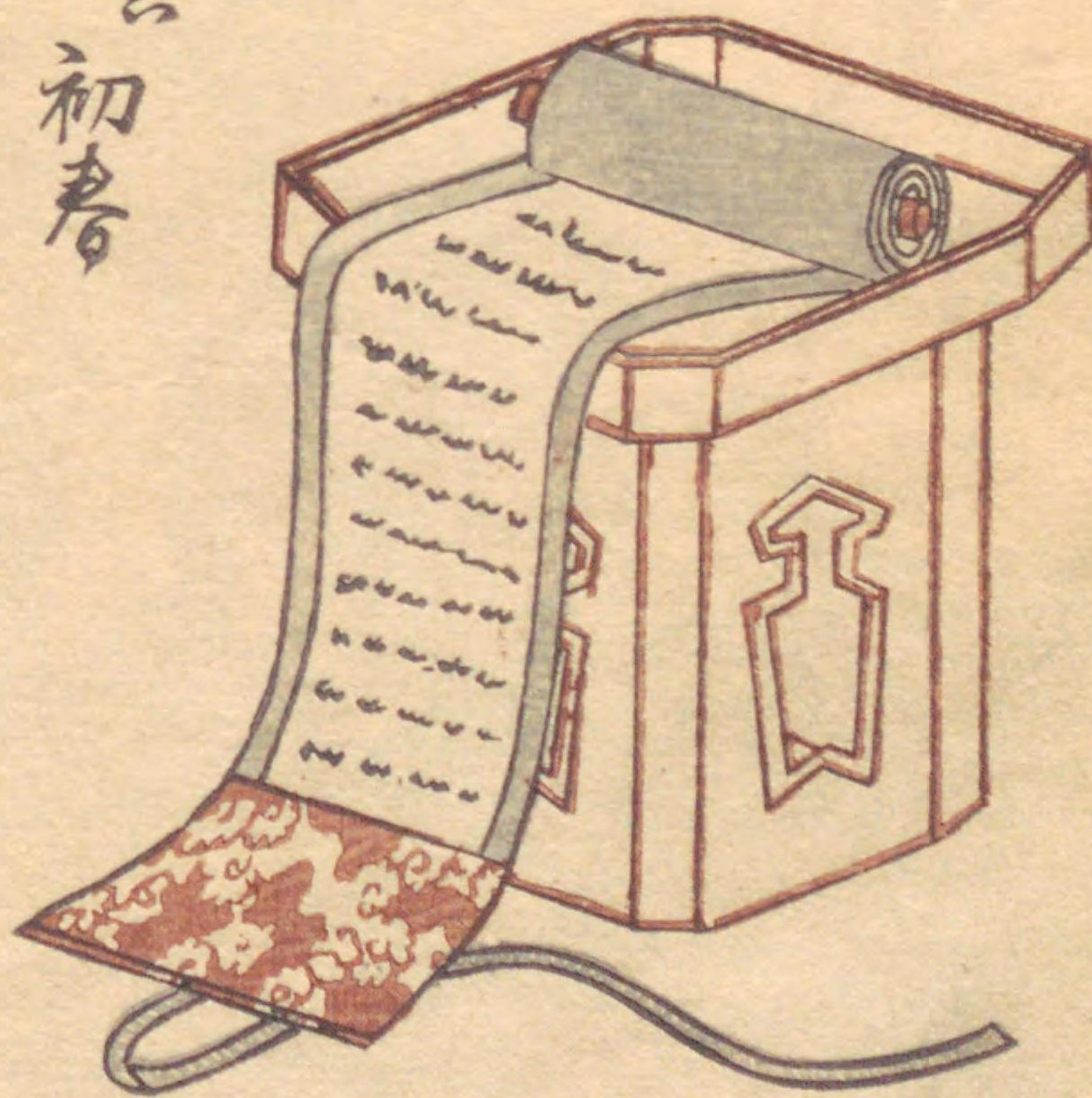
雪乃

ハツ橋

三篇上ノ巻

甲寅 初春

杉壽堂様



万葉集に「下野の安孫の河原の石ぬまの空のときぬよあやふの」と又堀河
百首「引連る。回居せんとは思ふ。春を真弓の山み入らる。」是れ
の二首「小笠原の安孫の子息真弓助と言ふ名を作せしむらむ。例の
架空の種とまれとも。素より巧める條もあく只その心のかのむく。隨ふ辞
小葉ぬえ之枝を交る。稍二節多て伸あひか。所謂獨活の大木あり。句
ひも味もあき著あり。作身の相あひま之疎生れ。已くら酔味増を
けりせんと思へ元自販元。駄物と知り仕込を急ぎ。尚か替りの准
備とあ。需へ所けと作者の曾ふ左に右趣向が切物るれども。此か間とを
言ひふく。画工の鯉節小出とをほけ。一寸当坐のか間を合し。

嘉永七甲寅歲孟春



為永春水誌



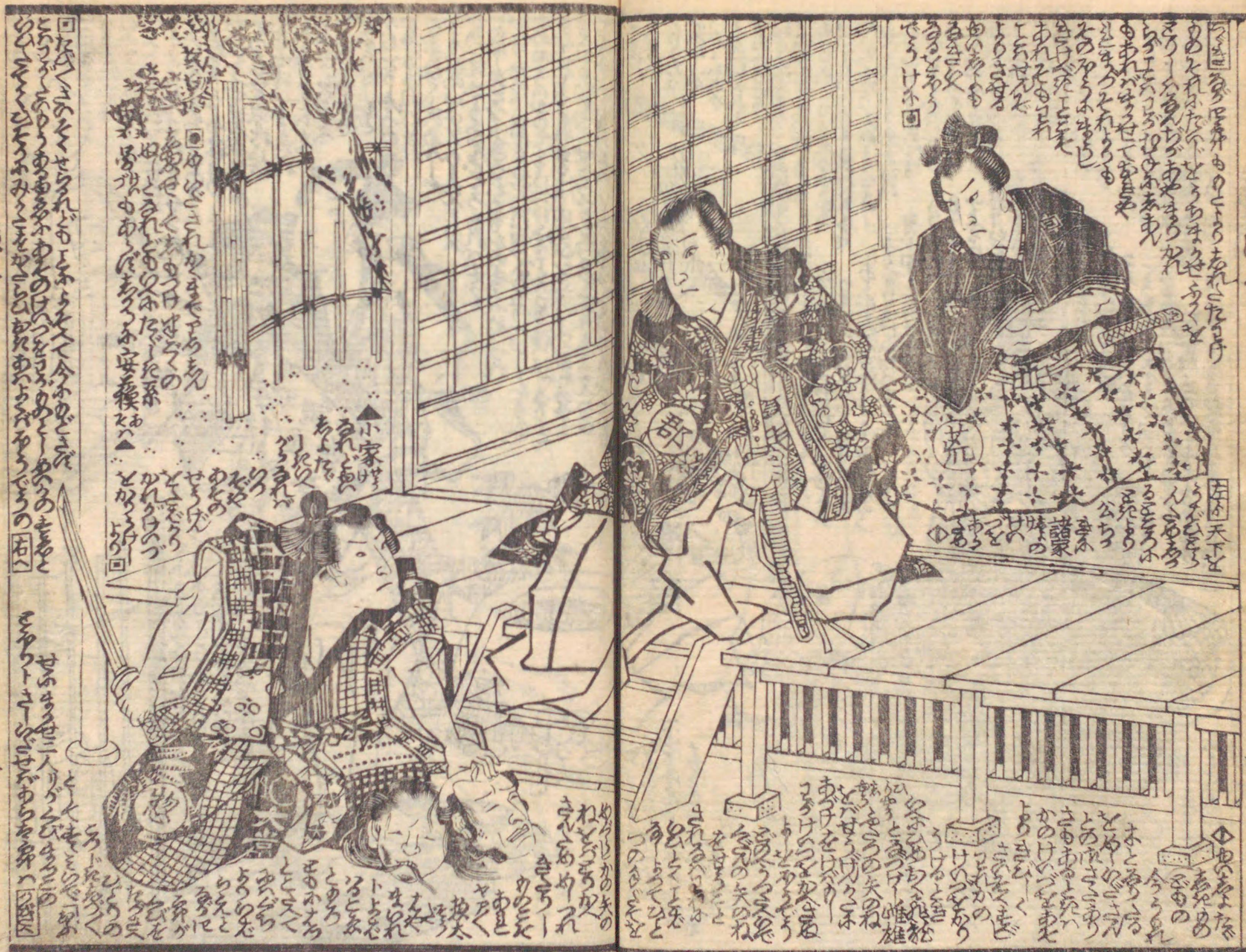
再出
真弓の助

二荒山の
妖怪









口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ

口ゆいこれかまてあま
あまてくあゆつたあま
あまてくあゆつたあま

小家
あま
あま
あま

口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ

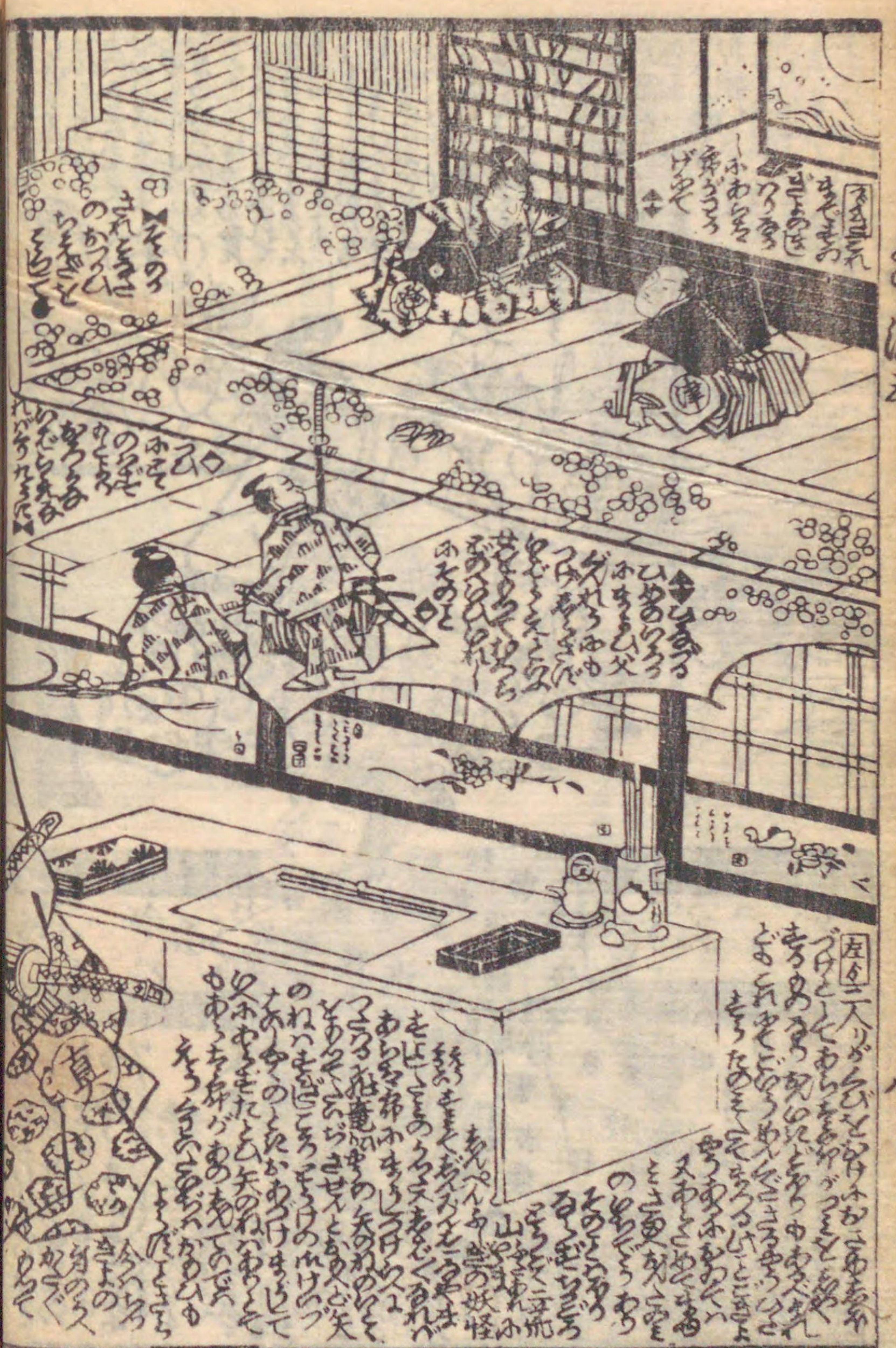
口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ

口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ

口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ

口なへんてんせられどもいふとて今ふかき
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ
つらういふもあつたあつたのけつをうかめ







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

國磨画



春水作

杏壽堂刊行

曲亭翁

女水滸

傳 十五編 大尾

曲亭馬琴作

歌川豊國画

藏板略目錄

風俗金魚傳

五編 馬琴作 大尾 國安画

雲雀山蓮系織

五編 玉蘭齋作 大尾 貞秀画

風俗伊勢物語

十編 仙果作 出板 貞秀画

國字水滸傳

二十編 仙果作 出板 國芳画

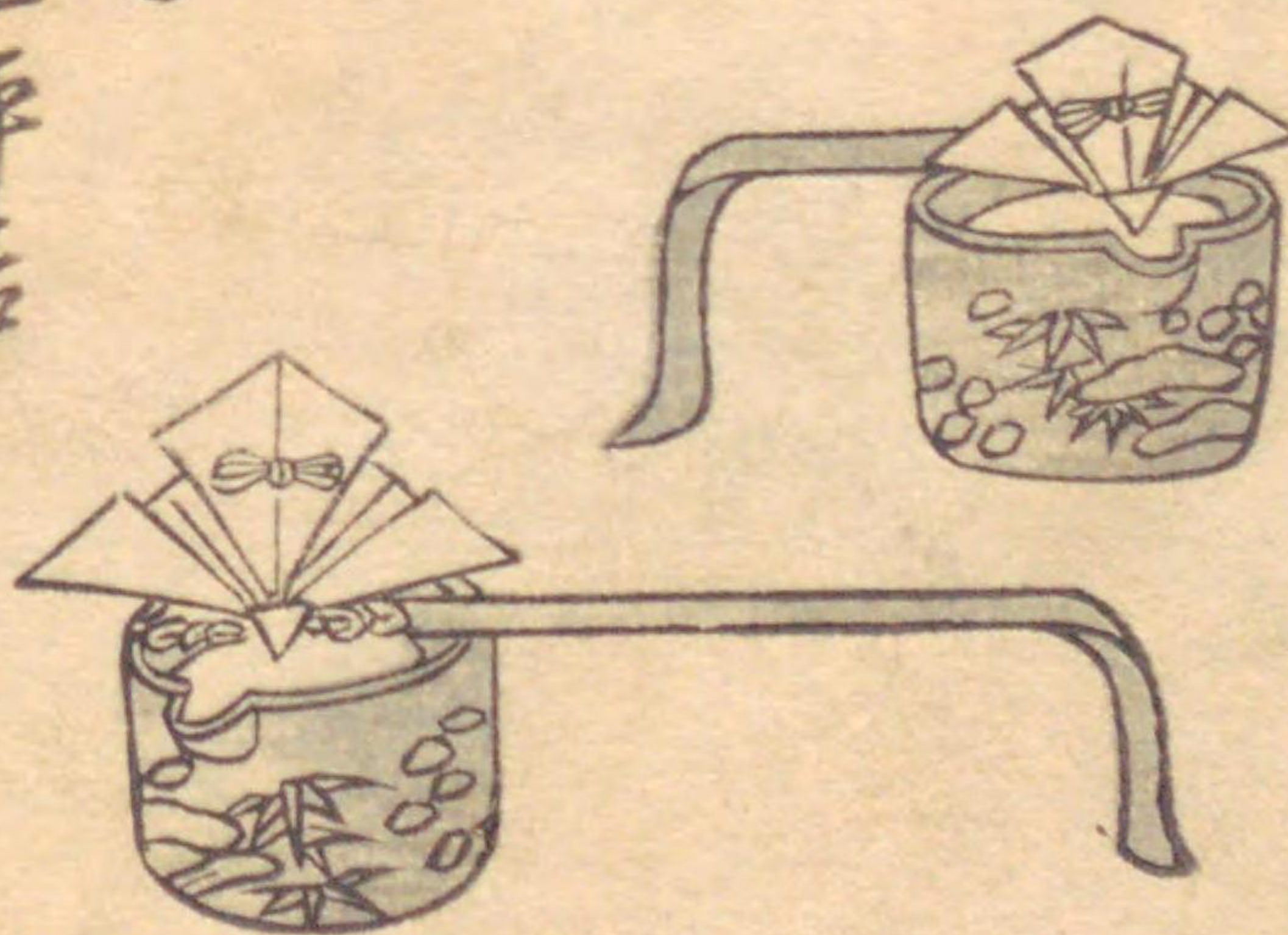
三國志画傳

廿編 貞一作 直久画





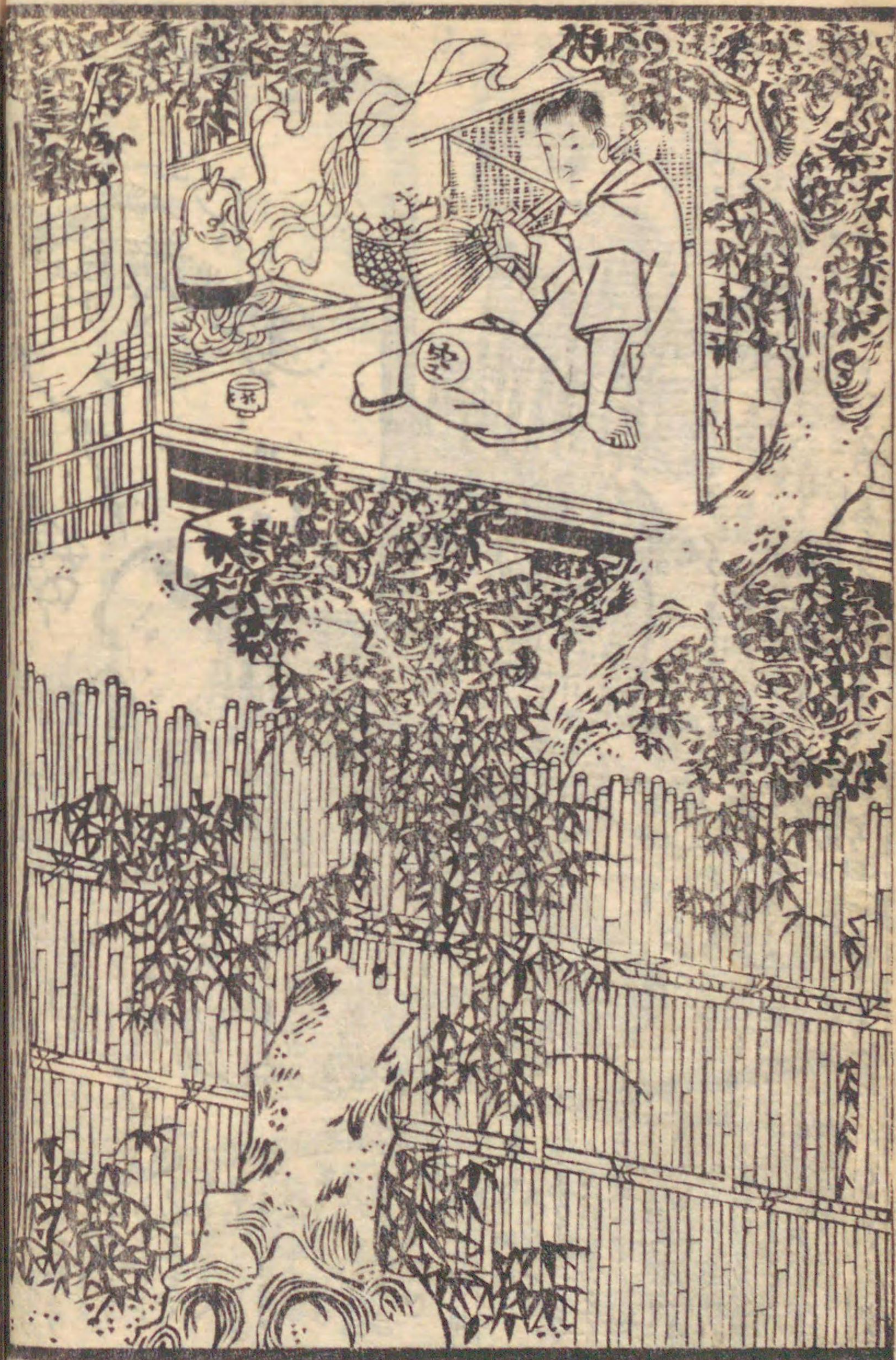
佐野の渡雪の八橋
 三篇下ノ巻
 表紙作
 大黒屋平吉
 東都西園
 門人松島



門人松島



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a chapter introduction or commentary. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes several small square symbols (hanko) used as section markers.

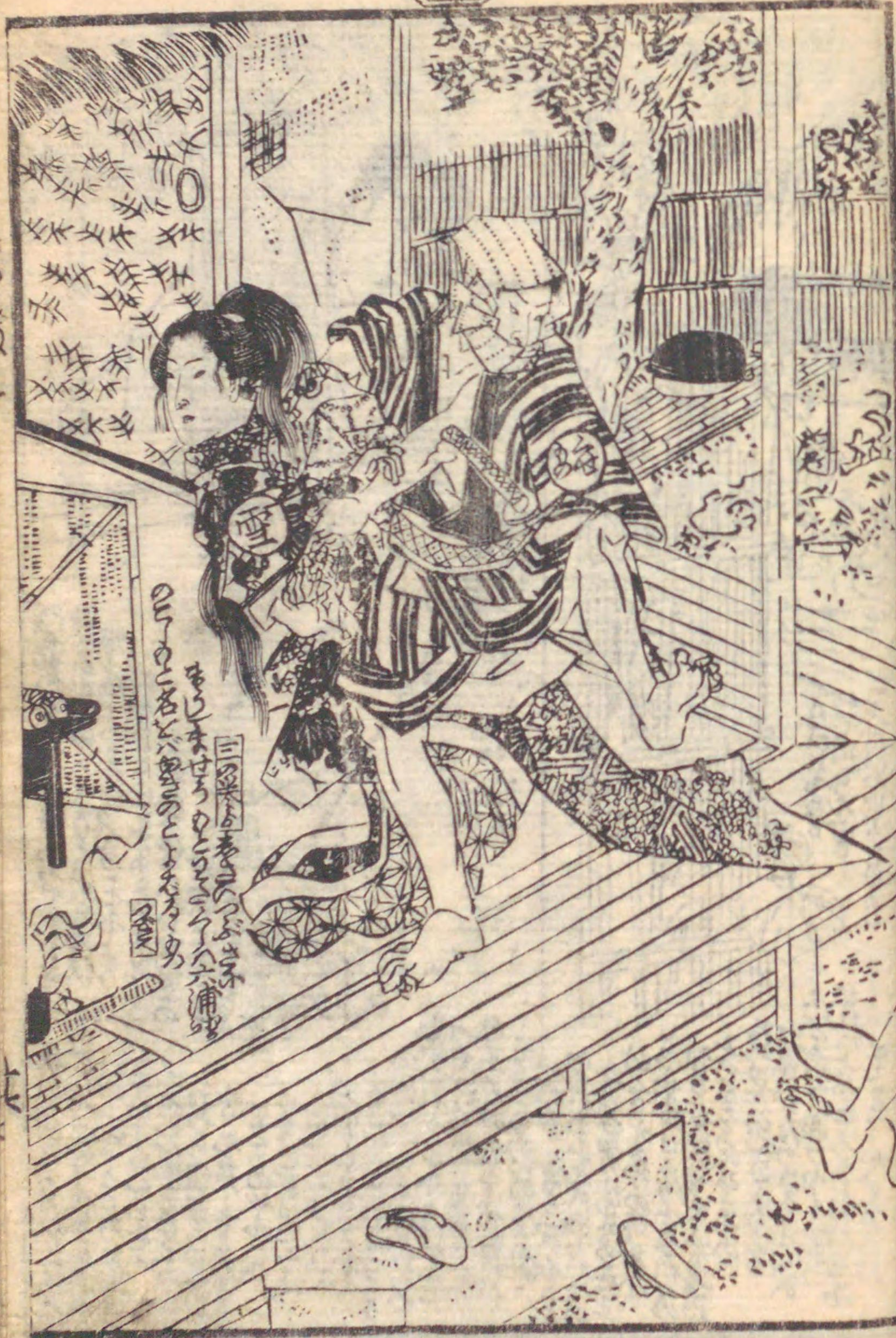


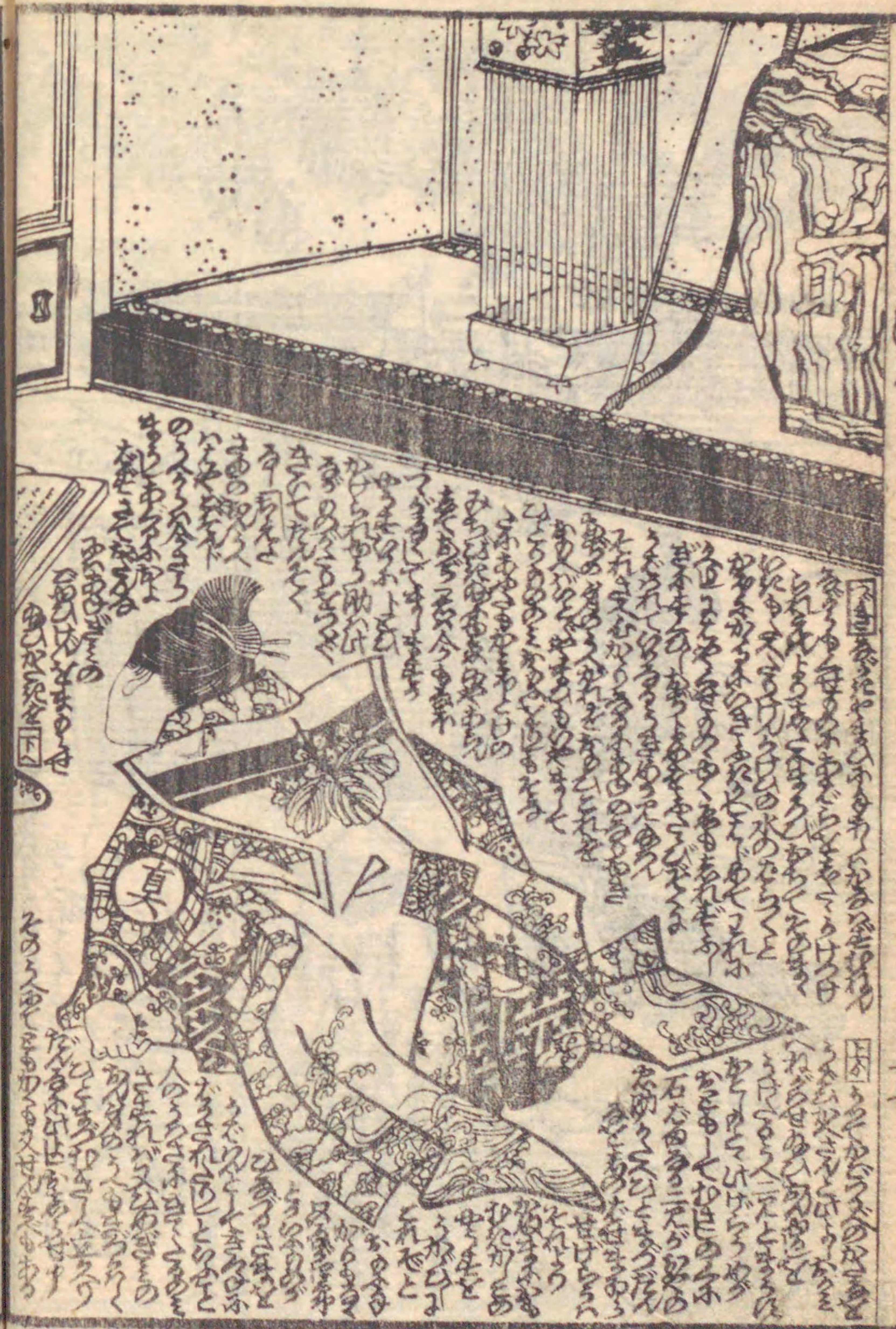
Small handwritten text on the right side of the page, possibly a signature or a note related to the illustration.















十人づきのさむびを
 やつれその日あしの
 なまをのりてくまき
 はみちをのりてくまき
 つぎの日のひまを
 とらやまの山
 ふゆとまきけり
 そのとまきま
 さいふとまき
 まちちらけわ
 ちのこのやま

「さむび」のさむび
 あつれその日あしの
 なまをのりてくまき
 はみちをのりてくまき
 つぎの日のひまを
 とらやまの山
 ふゆとまきけり
 そのとまきま
 さいふとまき
 まちちらけわ
 ちのこのやま

「さむび」のさむび
 あつれその日あしの
 なまをのりてくまき
 はみちをのりてくまき
 つぎの日のひまを
 とらやまの山
 ふゆとまきけり
 そのとまきま
 さいふとまき
 まちちらけわ
 ちのこのやま



安政四丁巳孟春發行目錄

弘化大雜書万々曆 全一冊

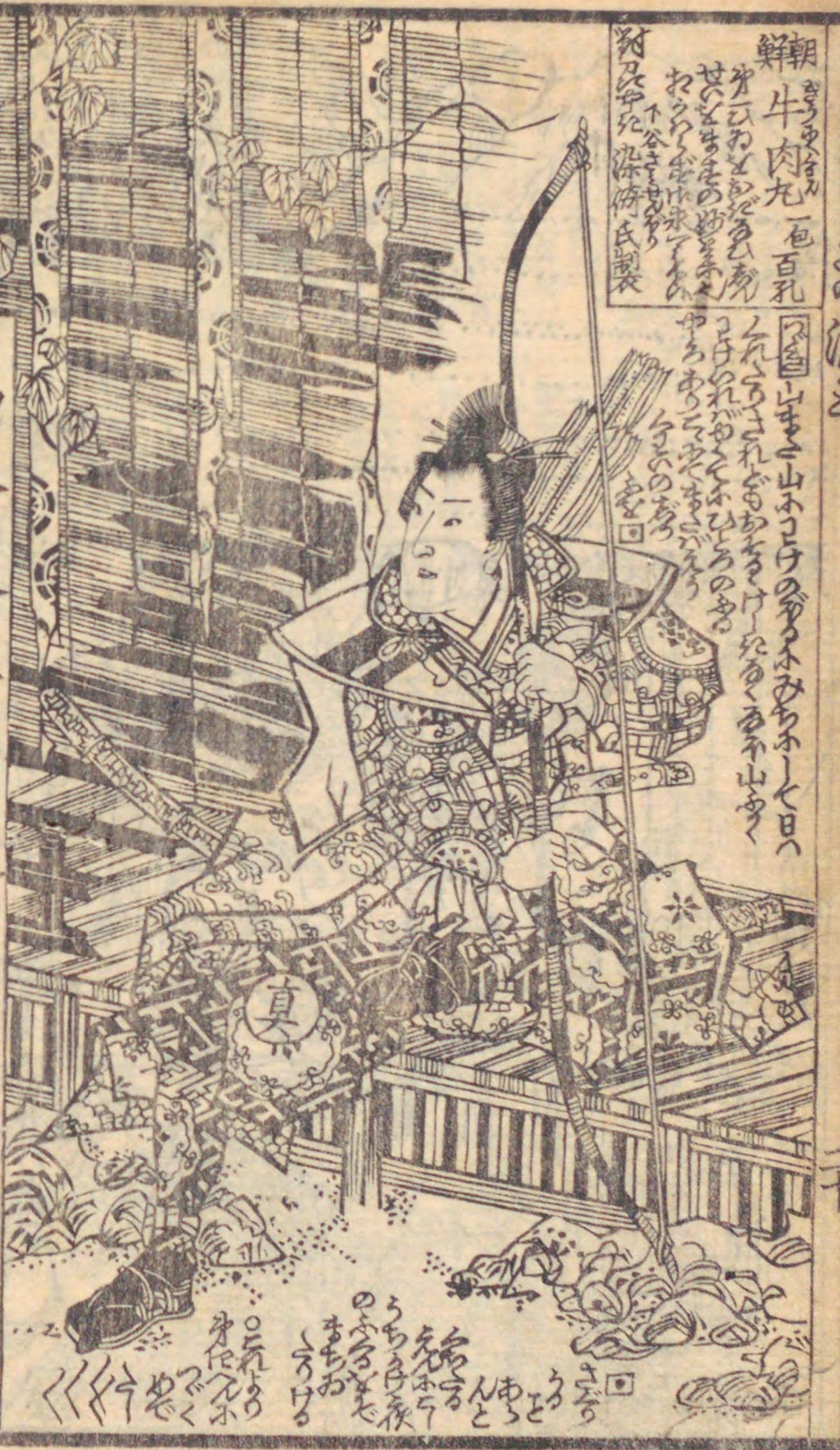
○佐野渡雪八ツ橋 六編 為永春水作
七編 梅蝶樓國貞画

○昔語室壁太郎 三編 為永春水作
四編 一壽齋國貞画
五編

○愛娘出世太平記 三編 為永春水作
四編 一曜齋國郷画

○地本草紙問屋松壽堂 東都西國吉川町
大黒屋平吉板

為永春水作の歌川國麁画



朝鮮牛肉丸 一包百孔
山小正の...
...

...



為永春水著
 歌川國麿画
 四編上巻
 佐野渡
 雪乃
 八ッ橋
 嘉永乙卯春新板
 松壽堂梓

今篇第四輯小出せりとの二流山山麓の下毛國都賀郡小川人王四十八
 代祢徳天皇の御宇勝道上人開創す勝道公垂仁帝第九の皇子卷高
 尊十余代の孫若苗姓高藤磨の子ありと云尔来弘法慈覚の兩大
 師統りて登山為るひつ所々の堂社を建立せしむる靈山ありて這山の
 中道より奥の女人及牛馬を登せむ仍て馬返村と云ふ地名の里ありて俗
 のく知る処小川と新小言ふなりとゆりやこれと女人禁制の深山鹿沼郡
 領敦実早川邊汝と名づけし二個の側女を伴ひての事看官怪之た
 ちしものありて開いた後小自ら分解せ死意味ある歟今あつちを言ひて
 色六僅小作者の用心を考へて半員を塞ぐ

乙卯孟陽新販


 為永春水誌る

巻四



側
女
早
川



早
川
側
女





鹿沼の取次士
姓名
未詳

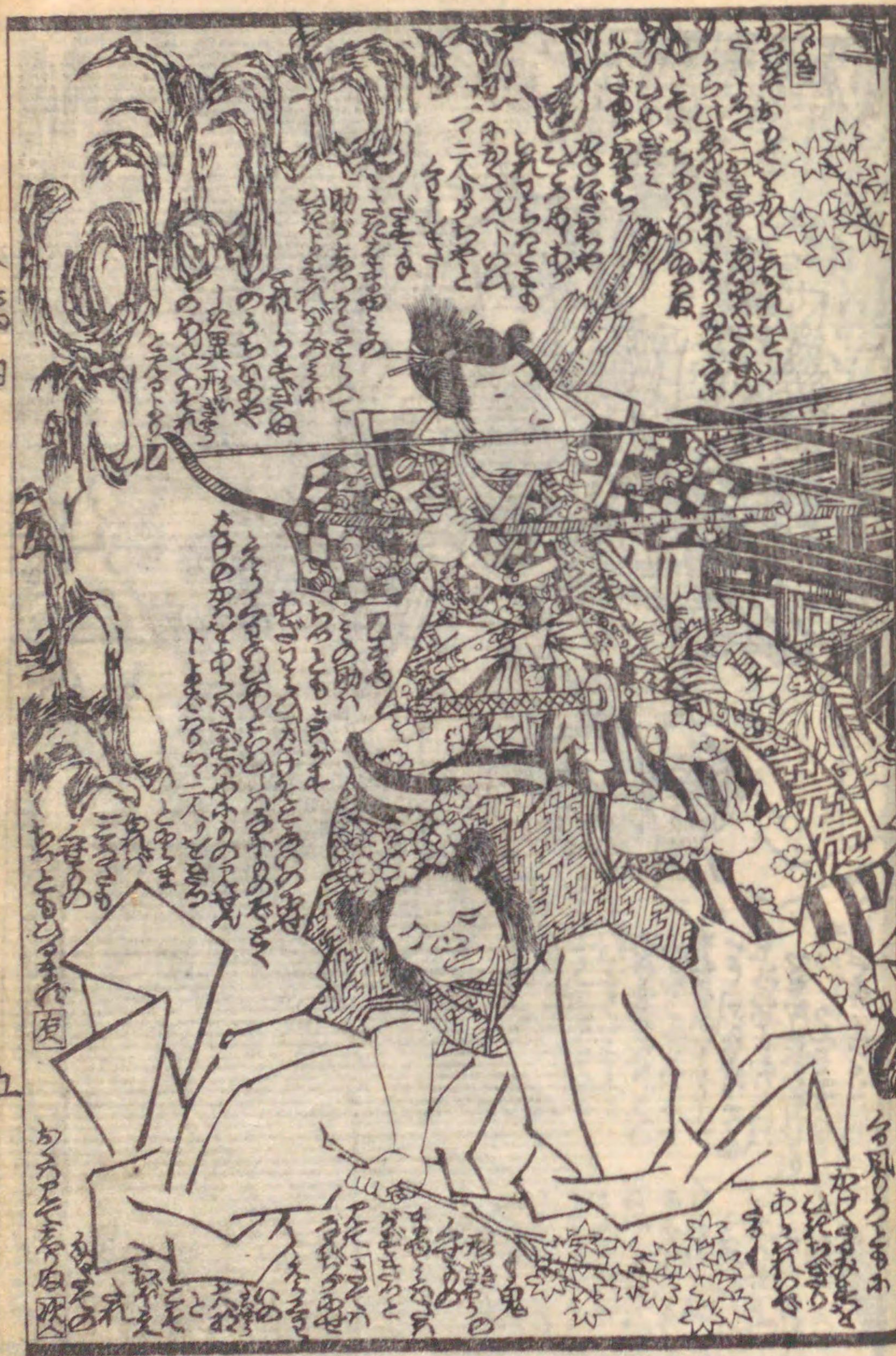
稲村蔭の磁石者

安模の
中野の
軽平の
駛卒

下奴
阿波平



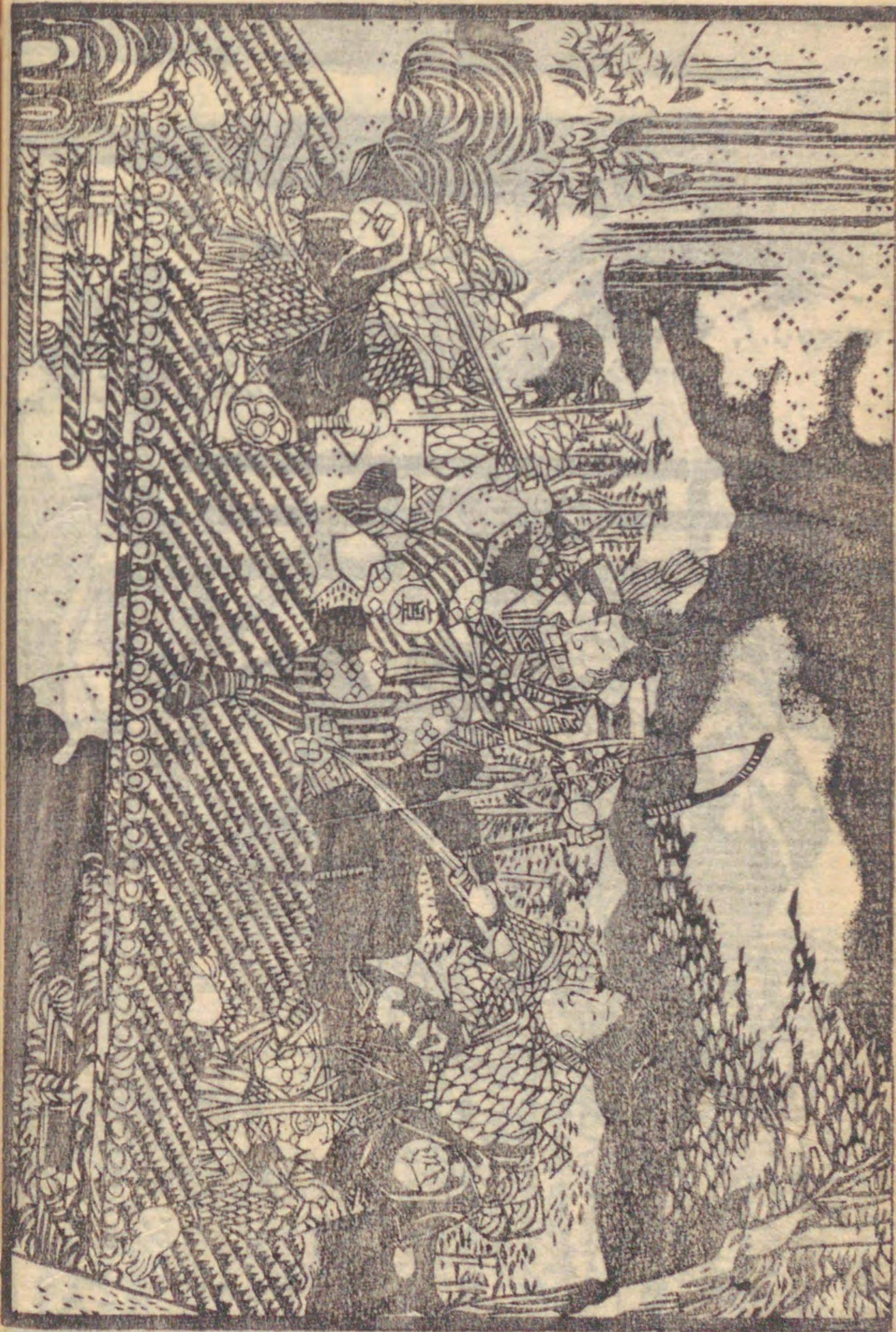
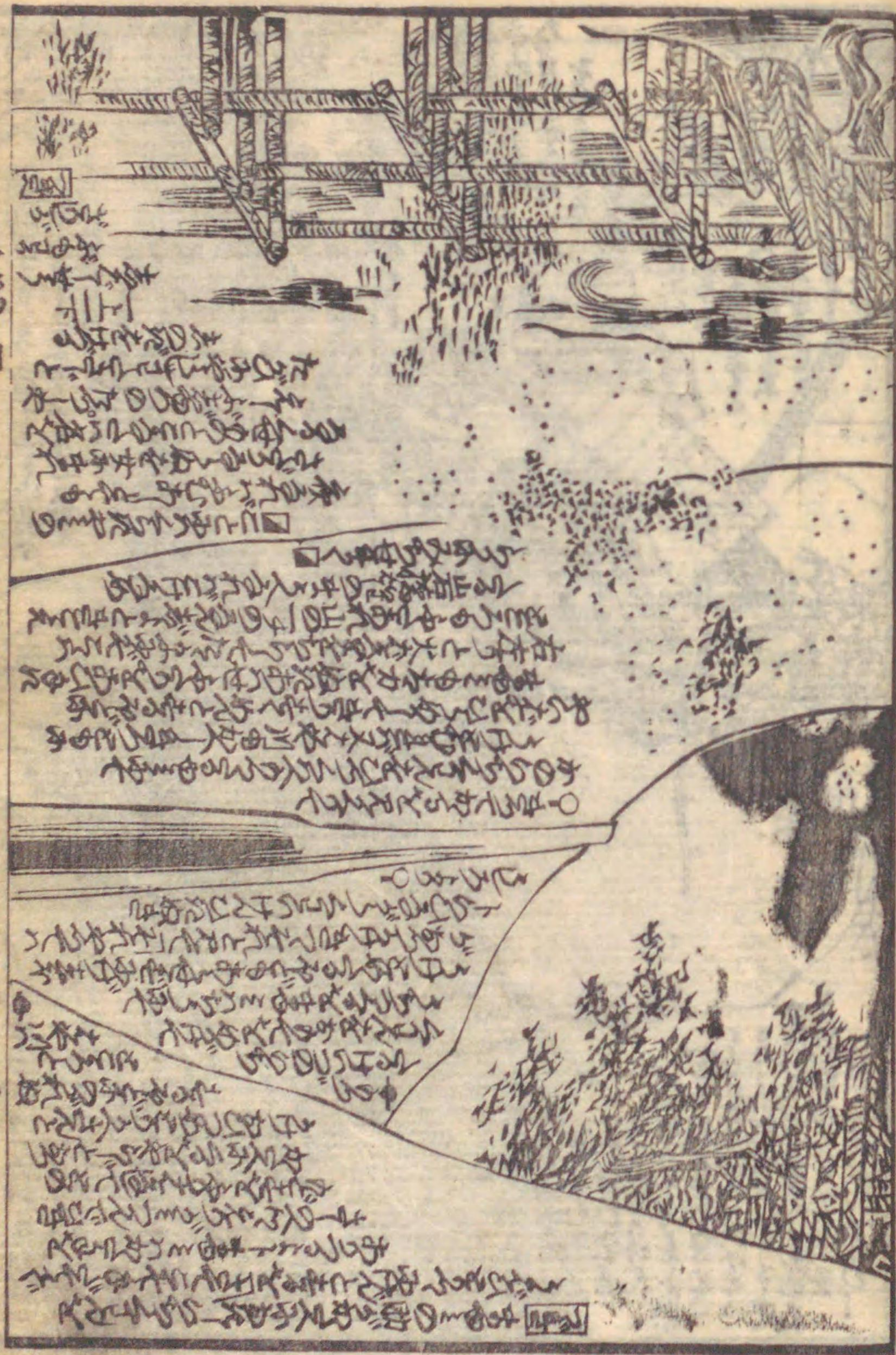








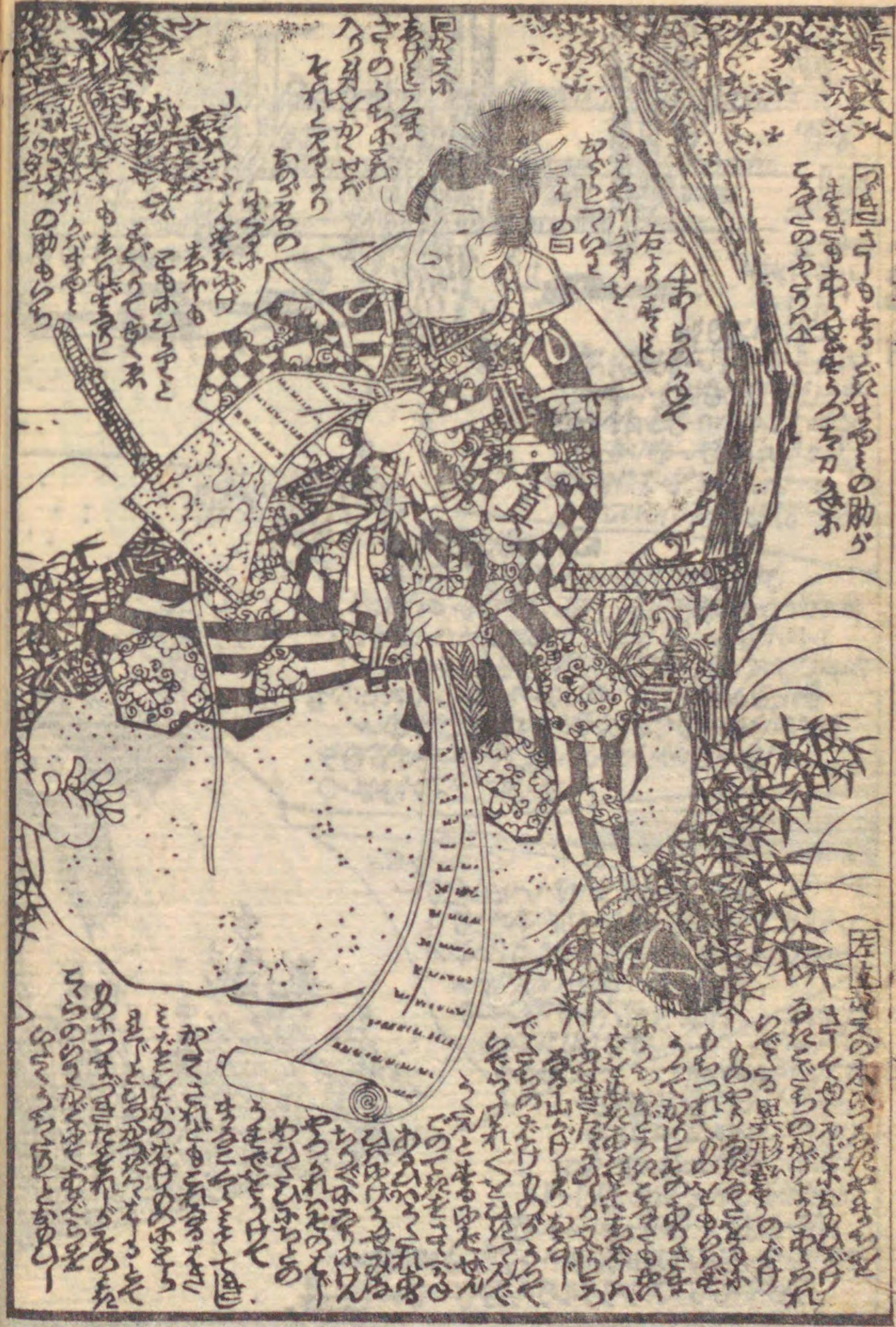






一高四

十



松壽堂藏版略目録

弘化大雜書万々曆 大本一冊

拳獨稽古初心帙 中本一冊

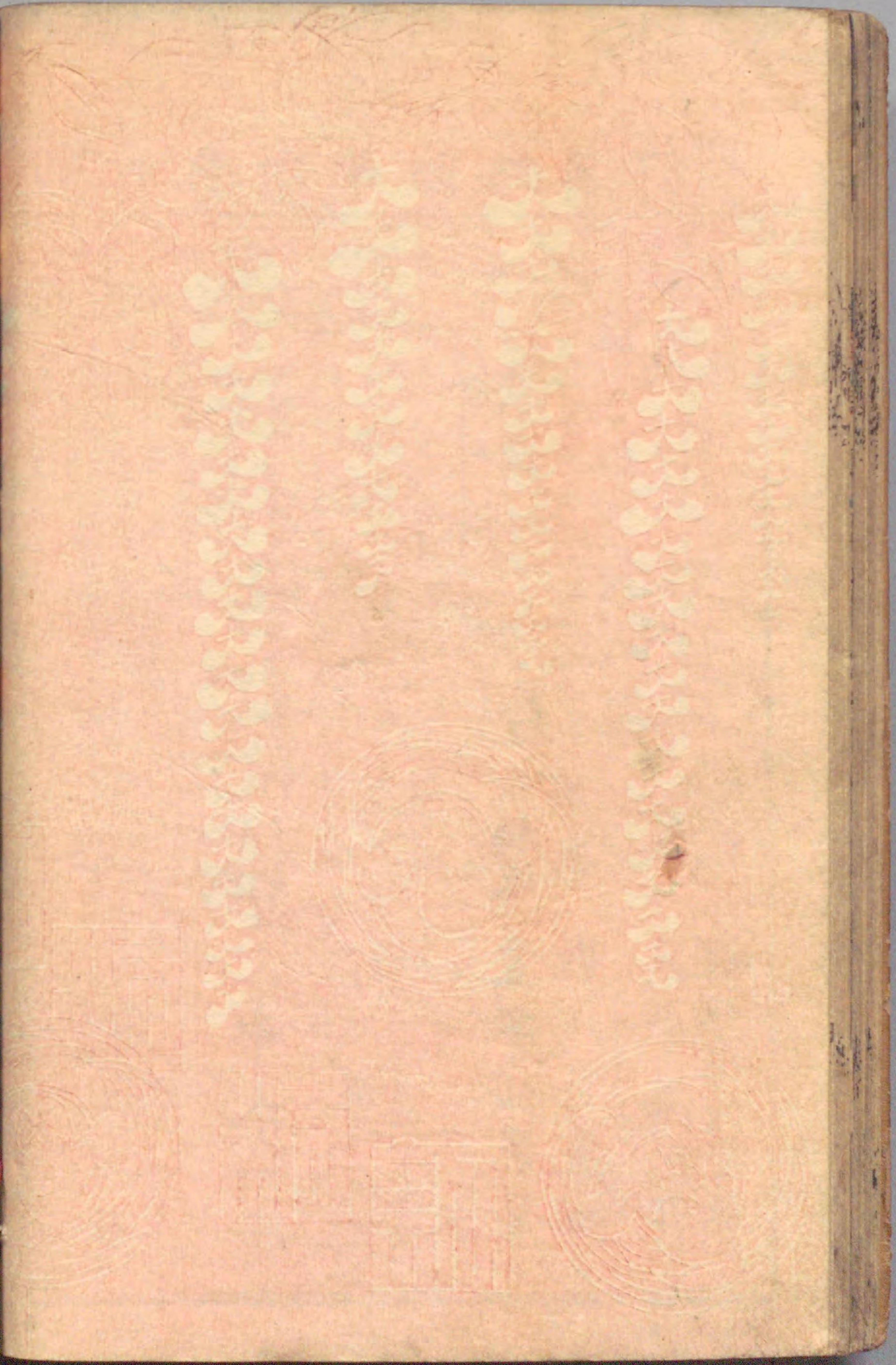
國字水滸傳 廿編近出来 三國志画傳 廿二編退々出板 一九遺稿文亭校 直久画

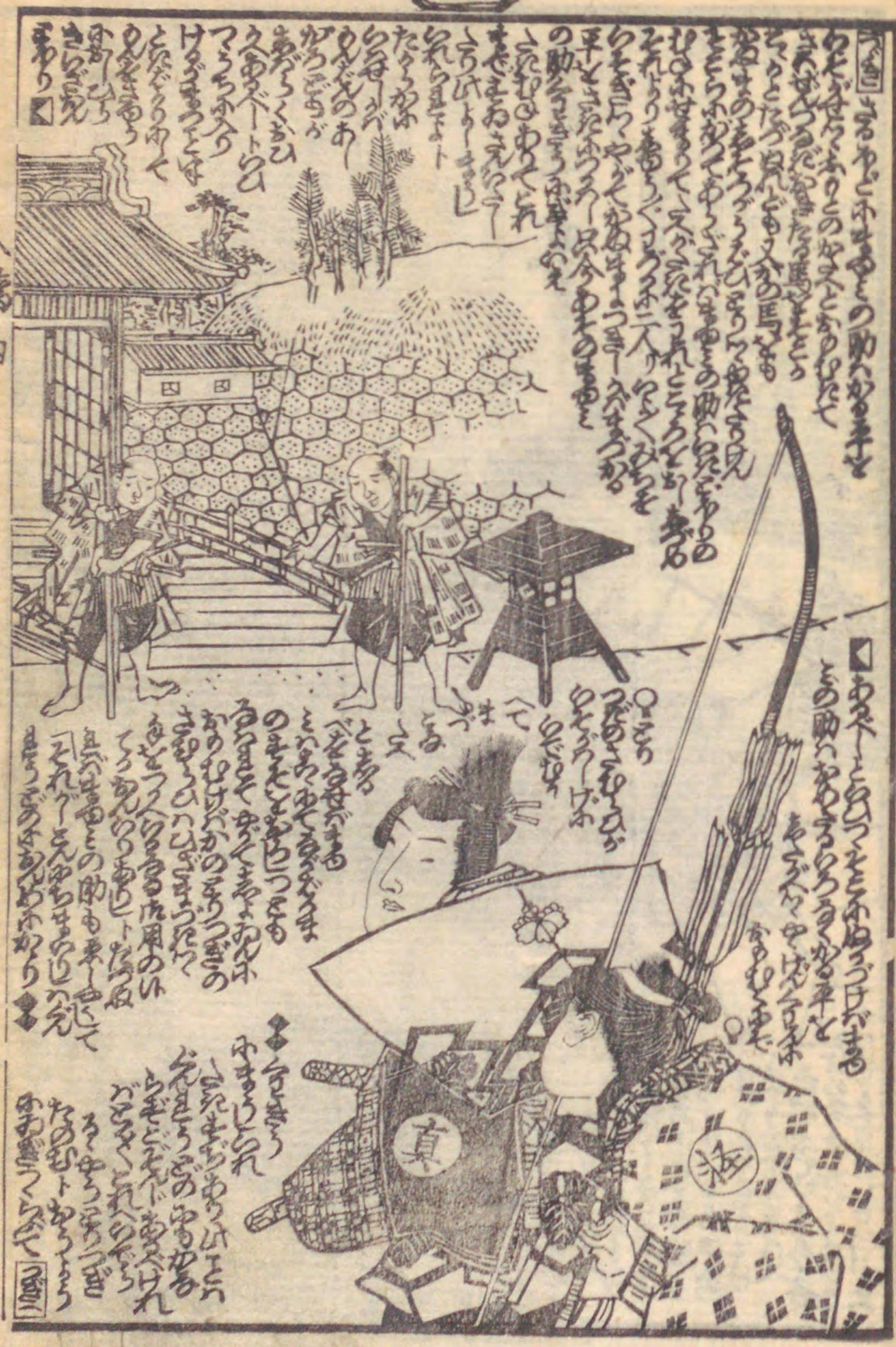
今様伊勢物語 十編道 笠亭仙果著 歌川貞秀画

愛娘出世太平記 二編 爲永春水作 三編 橘蝶樓國曆画

國曆画春水作







喜水作
國唐画

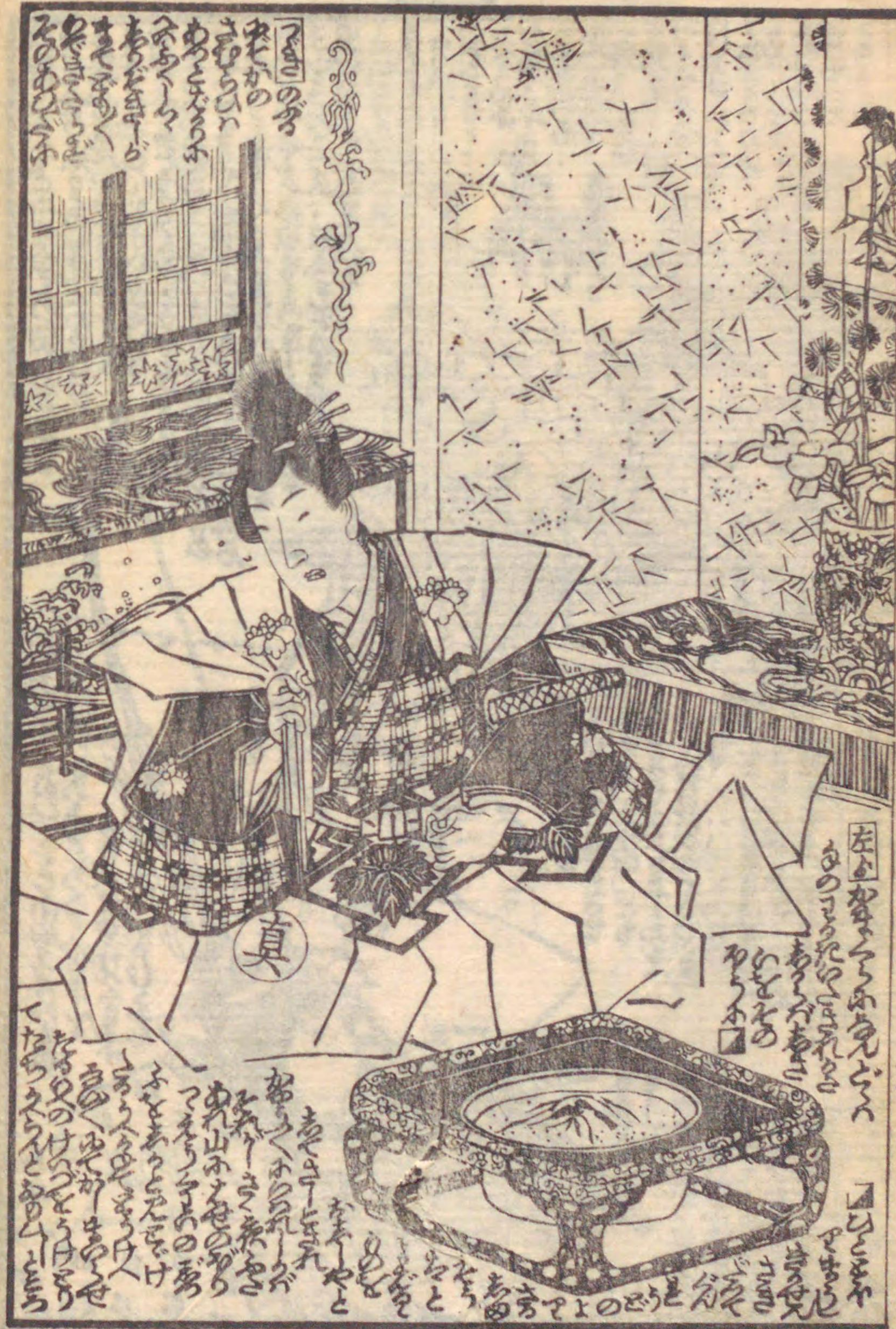
佐野の渡雪の八橋
ヤ
ハツ橋

四遍下巻

大里屋平吉様



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes various characters and symbols.



Vertical text block at the top left of the right page, possibly a title or introductory text.

Vertical text block on the right side of the right page, likely a commentary or stage direction.

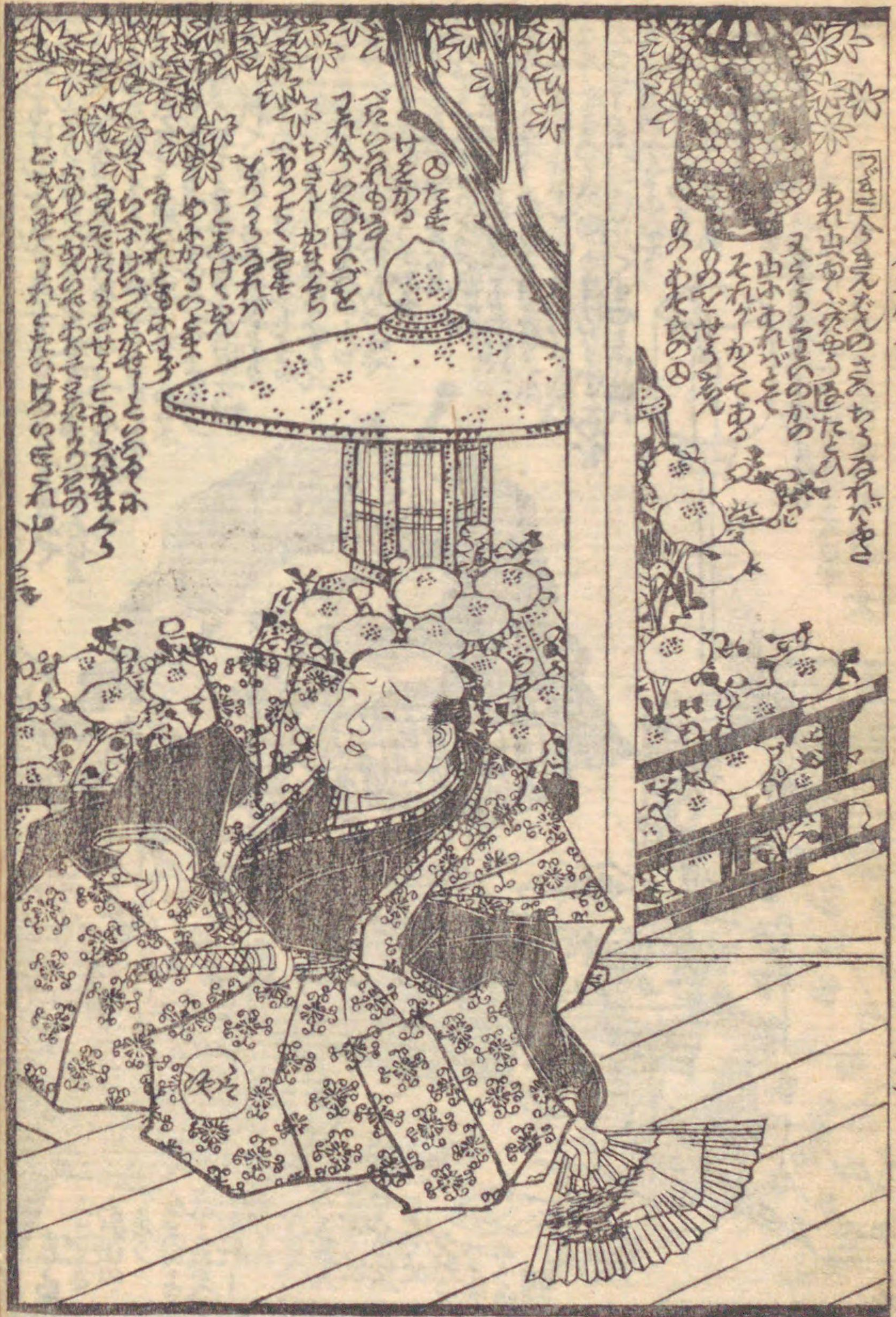
Vertical text block at the bottom of the right page, continuing the commentary or script.

Vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or reference.

Vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or reference.







一四

五

六

七





八橋

十五





四

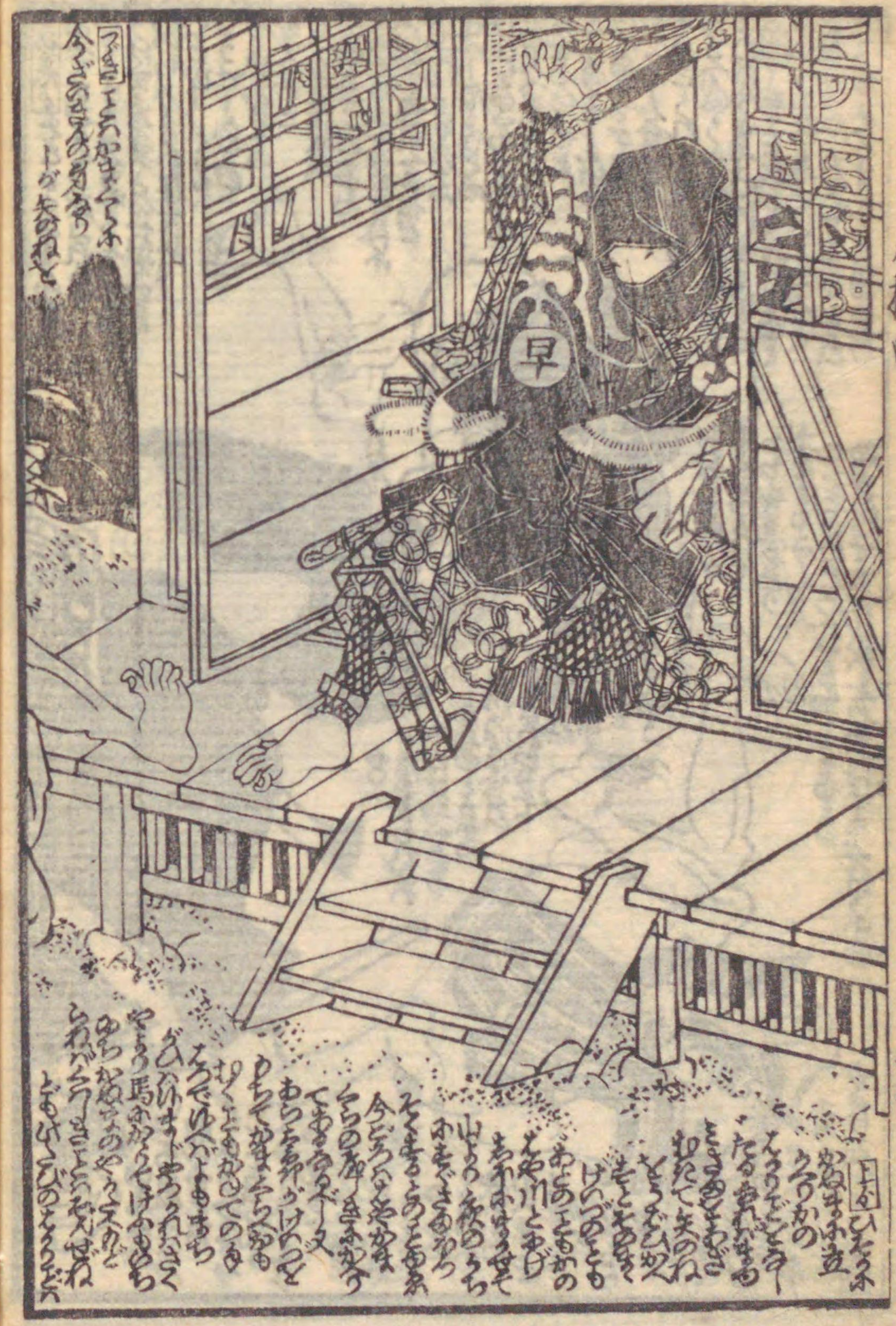
十

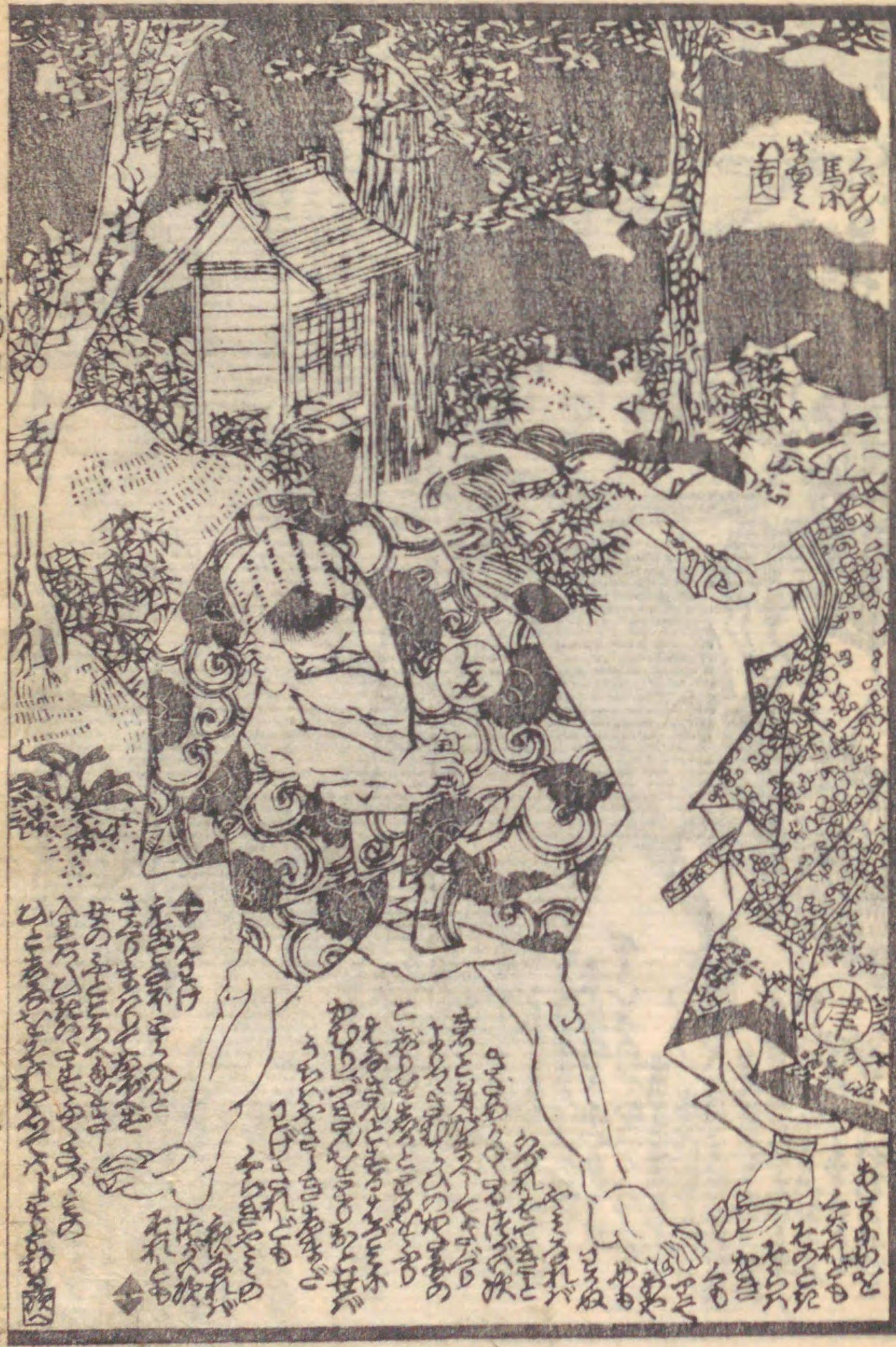


四

十









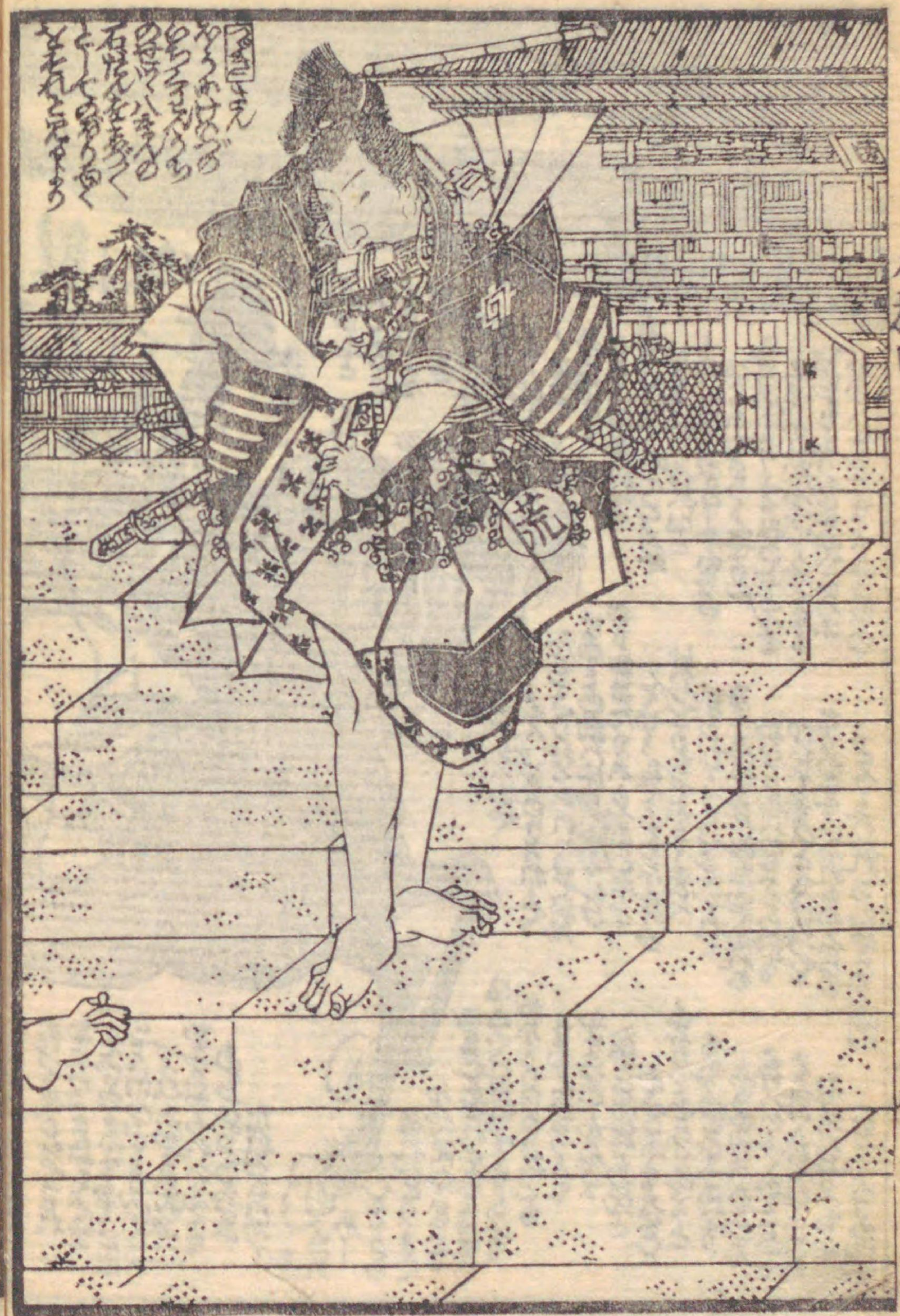
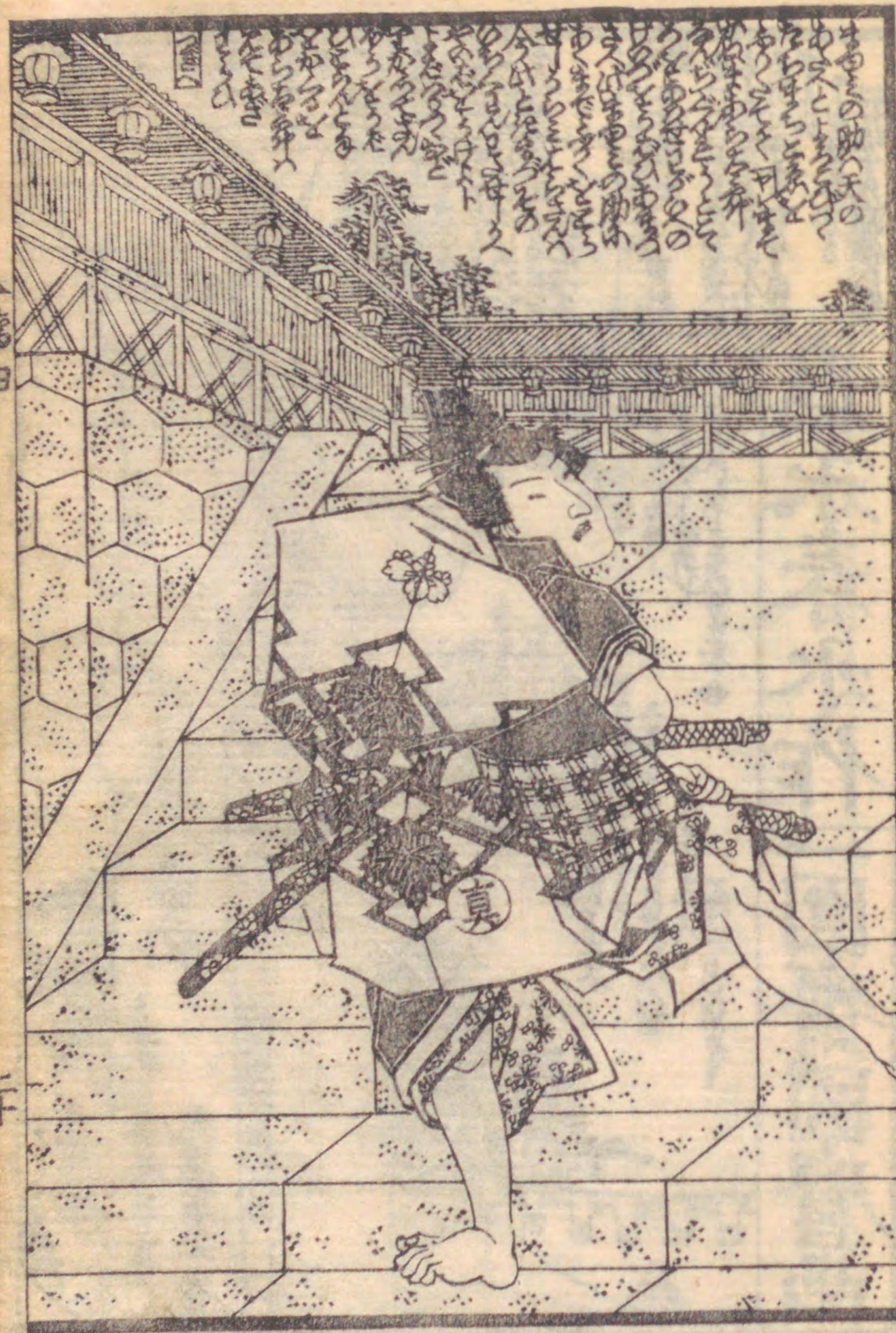
八橋

十四

八橋

十四





嘉永八卯春新本版目録

地本錦繪問屋

大黒屋平吉

東都兩國吉川町

中將姫 雲雀山蓮糸織

一代記
四編 玉蘭齋著
五編 歌川貞秀画

昔語室壁太郎

初編 為永春水作
二編 歌川國貞画

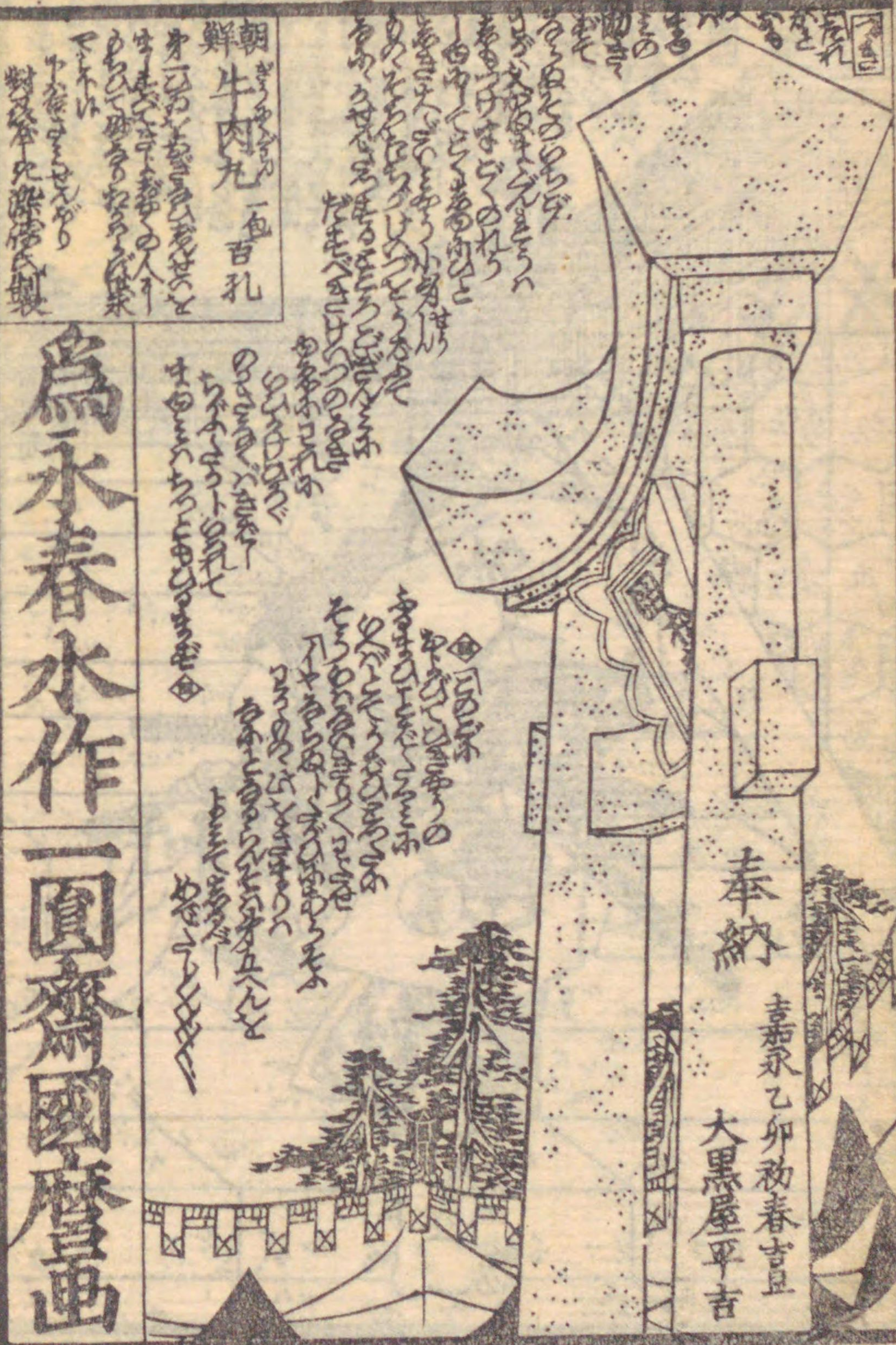
佐野渡雪乃八ッ橋

四編 為永春水著
五編 毒蝶樓國貞画

馬琴女水滸傳十五編

上帙 笠亭仙果編次
下帙 一陽齋豊國画

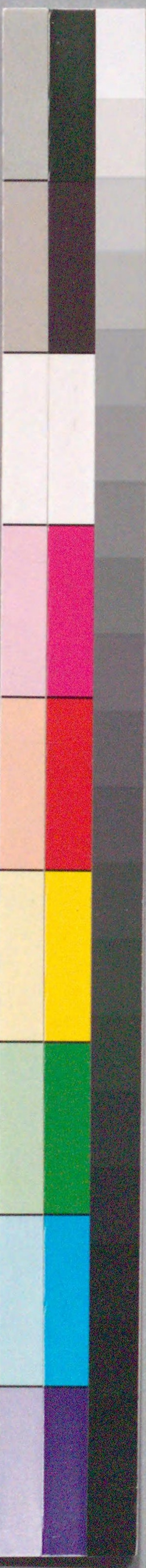
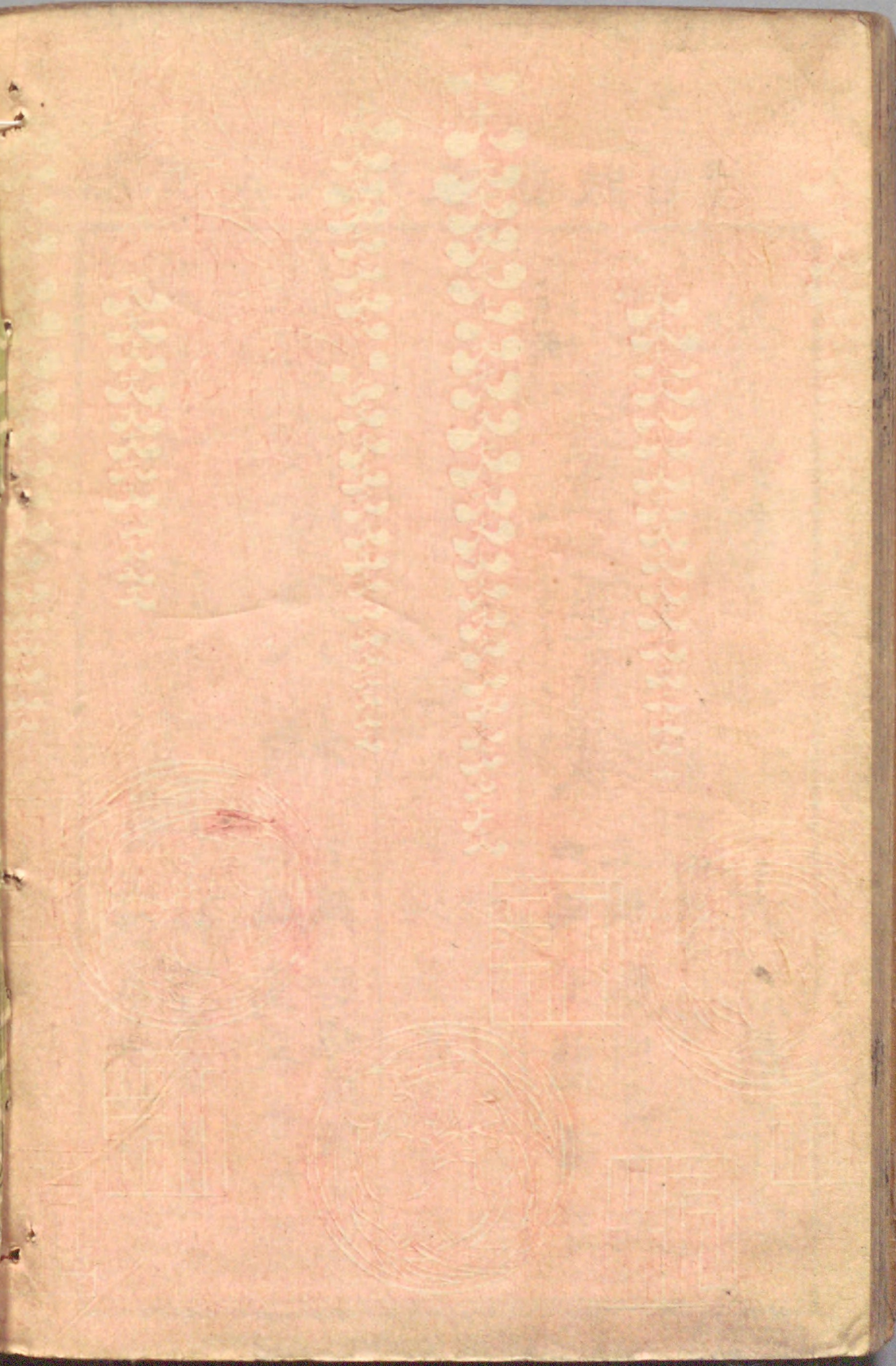
為永春水作 一圓齋國曆画



奉納 嘉永乙卯初春吉旦 大黒屋平吉

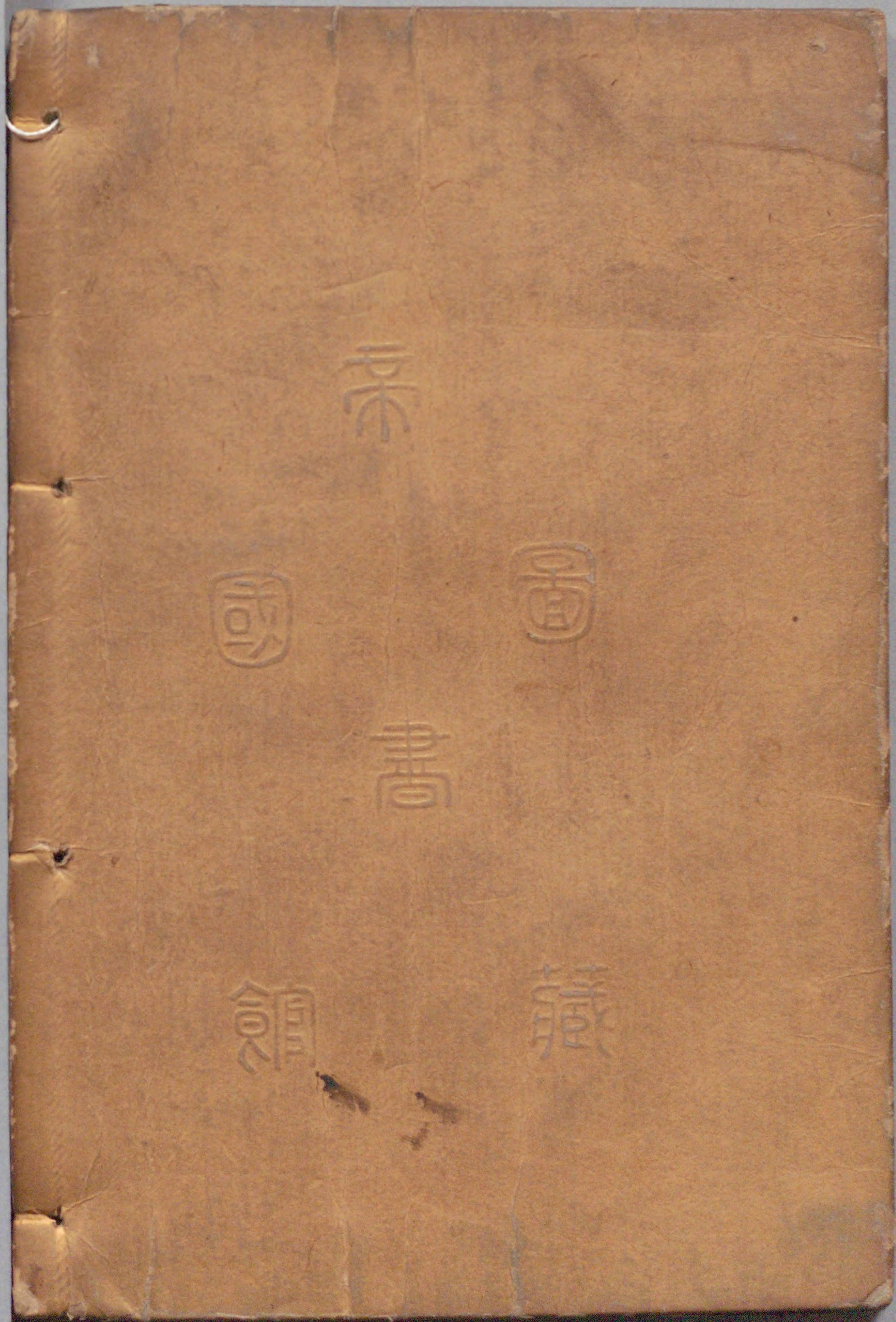
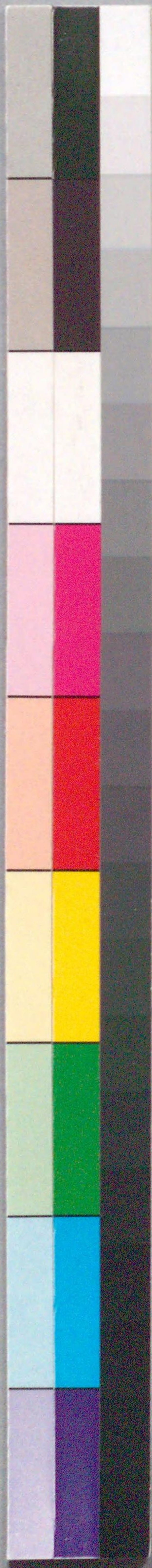
208
3
1717

この策子殊の外評し、預り後編進、由尋福と付
第五編より八画もお別れの國貞お札と彫摺美と受
仕上續いで六編七編と間をく出板はれ、預ふハ
四方の看官より、高評を多しと、いふ 板元敬白



208
3
717





国立国会図書館 佐野の渡雪の八橋 208-717

ガラス使用